

自宅で「自分らしい最期を」ささえるために －やすらぎサロン共同開催－

社会福祉法人奉優会 等々力の家居宅介護支援事業所

佐々木 克祥、芥川 裕美子、佐藤 直子、岩本 怜枝

(地域をともにつくる)

1. 目的

ケアマネジャーには、ソーシャルワークの領域で果たすべき役割と高い資質が求められてきている。利用者を介護サービスにつなぐだけでなく、地域の社会資源とどう結ぶか、さらに、さまざまな職種の人々と手を組み、地域に目を向け、社会資源の把握や開発・政策提言を担っていく、それがケアマネジメントではないかと考え地域のケアマネジメント力向上に寄与していくと共に事業所の取組みを通して居宅介護支援の現状や将来について提言する事を目的とした。

2. 実践内容

- (1) 地域資源の把握・課題の抽出
- (2) 個別援助を通し地域援助を展開（ターミナルケアの確立）
- (3) 3法人で癌当事者サロン共同開催
- (4) ミクロ・メゾ・マクロの実践確認と検証
- (5) ケアマネジメントの将来像を描く（取り組みから見えてきた試論）

※2019 シルバー産業新聞 10月号掲載

※2020 中央法規出版 月刊ケアマネジャー3月号掲載

※日経BP/2020 日経ヘルスケア9月号掲載



3. 結果

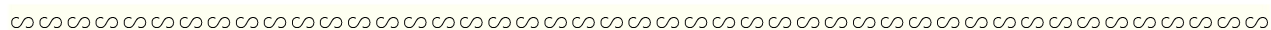
「個」の支援を通し本人の内心を探るマネジメントを大切にする援助を続けるうちに、地域の共通理解不足という地域の課題が目に入るようになり、認知症ケア同様、ターミナルケア支援においても既存サービスのコーディネートだけでは限界と感じ、事業所の理念でもある「本人の尊厳を守り、心に寄り添う」支援を実践することが必要であると考え、自宅での「その人らしい看取り」が実践できる体制づくりとして「ターミナルケアマネジメント」の準備を始め、当事業所のターミナル支援についての理念、考え方に共鳴し賛同した医療法人創福会ふくろうクリニック等々力、社会福祉法人大三島育徳会と共に癌当事者の会である『やすらぎサロン共同開催』を提案、毎月開催する運びとなった。

4. 考察と今後の課題

「個」の支援から地域課題を捉え、共同開催に至った「やすらぎサロン」は、昨年11月から、ロイヤル入居相談室二子玉川の協力にて場所を提供、少しずつではあるが支援の輪が広がっている。やすらぎサロンを通して『連携・ネットワークづくり』の構築プロセスを現場から確立していきたく考えている。まずは、理念や考え方が共鳴できる仲間を手を組めば、地域を



動かす大きな原動力となり『連携・ネットワークづくり』のプロセスを構築できるのではないかと考え、今後、等々力地区に 4～5ヶ所、拠点を設けていくことを目標にしたが、同時に報酬の対価も必要と感じ、マスメディアなどを通じ、国に対し福祉と医療両面からソーシャルアクションを起こすことで介護・医療報酬の改定を見据え、地域の資源開発・活用が評価されるべきではないかと要望した。報酬の対価がなければ、ケアマネジャーや医療職の重い腰も上がらず、連携とネットワークの構築が出来ないのではないかと課題を感じ、地域包括ケアシステムのソフト面（運用）の充実を確立していきたい。



<助言者コメント>

瓜生 律子（世田谷区福祉人材育成・研修センター長）



介護保険法は、要介護状態となった方が有する能力に応じ、「尊厳を保持」したその人らしい「自立」した日常生活を居宅において営むことができることを目指し、保健医療の向上および福祉の増進を目的としています。区民の死亡場所は平成 19 年に病院 4,513 人（80.2%）、自宅 898 人（15.7%）老人ホーム・老健 127 人（2.2%）だったのが、平成 30 年には病院 4,353 人（63.7%）、自宅 1,388 人（20.3%）、老人ホーム・老健 894 人（13.1%）と自宅や老人ホーム等で亡くなる方が増えています。

そのような中、医療・福祉関係者が力を合わせて開催されている「やすらぎサロン」は、癌などで不安を抱えているご本人・ご家族にとって、心のよりどころになっています。関係者が力を合わせることで、様々な相談に寄り添うことができ、また、関係者がお互いを知り、信頼関係の構築もできていると思います。お一人おひとりに丁寧に寄り添うことで、マネジメントの幅がさらに向上し、地域のケアマネジメント力向上に大いに役立っているのではないのでしょうか。

さらに拠点を拡大しようとしていたところ、コロナ禍で活動が制約されましたが、新たにオンライン開催を始められました。これは、なかなか現地まで足を運ぶことができない方も参加しやすいと思います。必要なものは、関係機関が力をあわせて創りあげる、まさにマネジメントそのものです。

誰もが住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、今後ともマネジメント力向上に向け取り組んでいただければと思います。大変お忙しい中、発表いただきありがとうございます。オンライン開催の様子など、来年の発表も楽しみにしています。